



馬 耳 東 風

昔から絶え間なく繰り返される民族間、異教徒間等における衝突、内戦など痛ましい紛争は、以前はどちらかと言えば社会的基盤が脆弱な開発途上国で起こっているように思っていた。しかし最近では、先進国も含め各地でさまざまな軋轢が起こっており、いつ武力衝突に発展するかも知れず、安穏としていられない時代になってきた。民主主義国の盟主を標榜する米国では、落選した次期大統領候補の狂信的な支持者が暴徒化し議会議事堂を占拠したり、人種間の軋轢から多くの黒人が犠牲となっている。また、敬虔な仏教徒の国として平和で豊かな安定した社会が確立されていると思っていたミャンマーでは、本来、国を守るための軍隊が多くを国民を殺戮しているなど、以前では考えられなかったような衝撃的な紛争が起こっている。国家体制が確立され安定した社会と思われている国でこのような混乱、衝突が起こるとは夢にも思っていなかった。

誰しも個人的には安全で、豊かな生活ができる争いのない社会の実現を望んでいるであろうが、それが実現できないのは人間の性であろうか。人間は誰しも完璧な人格を持ってはいない。育った気候風土、国民性、人種、社会体制などさまざまな環境要因の中で考え方が確立されてゆく。それ故に考え方に相違があるのは当然のことであり、その多様性を基礎に現代社会が成り立っている。思想、宗教の違いを相互に容認し、人としての価

値を認め合うことが平和な社会の構築のために最も重要なことである。一神教とは異なり多神教を是とする日本人は神社の境内に寺があり、寺の境内に神社があっても特に違和感を抱くこともなく受け入れている。その宗教的寛容さが日本人の社会的寛容性の基盤になっていると思われる。寛容性を失った社会は衝突を繰り返す温床となり国民にとって決して住みよい社会ではない。権力闘争、虚偽が横行する世相の中で、物事を見る眼がだんだん疑心暗鬼になってきたように感じているが、これは悲しいことである。

終息が見通せないコロナ禍の中であって、獣医学における感染症対策の基本とは異なるやに思える対策が緊急的に繰り返されている今、国民は先の見えない防疫対策の行方に不安を募らせている。昨年、緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大された4月16日、旅客を除いた全国の感染者数は9,150名であった。それが全面解除された5月25日、感染者数は16,671名に、そして1年経た今年4月16日には526,285名になった。これに至った背景には複雑な要因があろう。ただ、1年間以上の努力でも制圧に失敗したこの危機に対して、ワクチン接種をはじめとした防疫対策は、国民の健康・福祉よりも経済を重視したかのように見え、その責任の所在も明確ではない。この感染症は国民の健康に関する問題ではなく、経済問題であると言っているようだ。流行の第4波の只中にある感のある今、国民はその行動に今まで以上に厳しい制限が求められている。(青)